

氏名	松岡 瑞雄
学位の種類	博士（ヒューマン・ケア科学）
学位記番号	博甲第 10899 号
学位授与年月	令和 5 年 3 月 24 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当
審査学術院	人間総合科学学術院
学位論文題目	下肢装具の処方からフォローアップにおける課題と その解決への提言

主査	筑波大学教授	教育学博士	徳田克己
副査	アール医療専門職大学教授	医学博士	柳 久子
副査	筑波大学准教授	博士（保健学）	橋爪祐美
副査	筑波大学助教	博士（医学）	後藤亮平

論文の内容の要旨

松岡瑞雄氏の博士学位論文は、脳卒中等で損なわれた下肢機能を補完する下肢装具の処方からフォローアップにおける課題についてユーザー（使用者）と理学療法士（PT）、義肢装具士（PO）、医師を対象に自記式調査や質的研究で詳細に調査し課題解決に向けた具体的提言を行ったものである。その要旨は以下のとおりである。

（目的）著者は下肢装具の処方からフォローアップにおける課題について先行研究をレビューし、不十分な体制となる要因の全体像が不明なこととユーザーと専門職間の下肢装具の認識における相違の 2 点から課題を整理し、これらをユーザーに限らず PT、PO、医師の立場から複眼的に明らかにして解決への提言を行うことを目的に 3 つの研究を行っている。

（方法）研究 1 として、著者は地域在住ユーザーを対象に下肢装具の使用実態や適切な管理への理解を問う自記式調査を行っている。調査には著者が先行研究を基に作成した質問紙と、福祉用具の満足度を測定する QUEST2.0 日本語版を用いている。研究 2 として、著者は PT、PO、医師を対象に、諸課題が生じるメカニズムと、解決阻害要因についてインタビューを行い、グラウンデッド・セオリー・アプローチの継続的比較分析法を援用した質的研究を行っている。研究 3 として、著者は PT、PO を対象に、先行研究と研究 1・2 の結果を基に調査項目を作成しオンライン自記式調査を行っている。分析は単純集計と、同一の設問への回答内容の違いを明らかにするため χ^2 検定を施している。

（結果）研究 1 で著者は 85 人の回答を得て、25% が下肢装具を日常的に使用せず、27% が装具に故障があり、78% が下肢装具の耐用年数を知らない点を明らかにしている。またフォローアップの重要性の説明は 55% のユーザーに届いておらず、確認できる書類も手元にない割合が 64% であった点を明らかにしている。QUEST2.0 日本語版で満足度を 5 段階で評価したところ全項目の満足度は 3.96 ± 0.19 で、項目別ではアフターケアに関するものが最も低かったことを明らかにしている。研究 2 で著者は、PT 9 人、PO 5 人、医師 5 人の協力を得て、PT の卒前後の不十分な教育背景等を指摘した語りの分析から中

核カテゴリ『ユーザーを難民化させる』を抽出し、P0では収益性の乏しさや関連制度の不合理性などを指摘した語りから中核カテゴリ『社会環境・背景がユーザーを孤立化させる』、医師では不十分な教育背景などを指摘した語りから、中核カテゴリ『セーフティネットに穴が開く』を抽出している。研究3で著者は、224人のPT、173人のP0から回答を得て、ユーザーの実生活を見る機会が数か月に1回以下の割合がPTで85%、P0で66%であった点を明らかにしている。また、介護支援専門員（CM）への情報提供は両職種とも約10%であり、さらに下肢装具に関する説明に書面を用いている割合がPTで13%、P0で20%であった点を明らかにしている。

（考察）著者は、下肢装具に対するフォローアップ体制が構築され難い要因は、収益が保証されない現行制度や業務過多、人員不足で、いずれの職種も積極的に主導し難い現状となっていると述べている。また著者は、PT、P0が日常的にCMに下肢装具の情報提供をしていない点や、地域で多職種連携を促進する土壌が醸成されておらず、ユーザーの心身機能や社会経済的背景も改善を妨げる解決しがたい障壁となる事が考えられると述べている。そして、この状況に対する提言として著者は、医療特化型SNSやオンライン会議システム活用や、地域の基幹施設がユーザーや家族、専門職種から成る地域コミュニティを牽引する新たな試みの有益性を主張している。さらに著者は、下肢装具の重要事項説明に際しPT、P0、医師が協同製作した書面を用いて説明の際は同席者を増やす取組みを行う必要性を提言している。終わりに著者は、将来的に一定の資格を有するPTが下肢装具処方に関与を強めてゆく事の必要性を医師の業務負担を軽減し得る点から述べている。

審査の結果の要旨

（批評）

本論文は、下肢装具のフォローアップに関するユーザー満足度の実態、関わる専門職が認識する課題発生のメカニズムと解決阻害要因に関する全体像の把握を踏まえ、PT、P0を対象に認識の相違や共通点を明らかにした上で解決に向けた具体的提言を行った独創的な研究である。著者自身の臨床経験上の問いを原点に、質問紙調査では把握困難な職種間のパワーバランス等を質的調査によって多面的に明らかにして学術的な問いへの答えと解決に具体的な提言を行っている。

これらの結果は多様な要因によって妨げられている下肢装具のフォローアップにおける体制整備について、各職種が個別で又は連携して取り組める対策と、下肢装具処方をめぐる将来的なタスクシェアについても言及する意義あるもので重要な成果として認められる。

令和5年1月10日、学位論文審査委員会において、審査委員全員出席のもと論文について説明を求め、関連事項について質疑応答を行い、最終試験を行った。また、著者が学位を受けるために必要な知識・能力等（コンピテンス）を修得していることを確認した。その結果、審査委員全員が合格と判定した。

よって、著者は博士（ヒューマン・ケア科学）の学位を受けるのに十分な資格を有するものと認める。